

# えん罪・仙台北陵クリニック事件 千葉刑務所 守大助さん面会記



12月4日(火)、千葉刑務所にいる守大助さんとの面会に連れ合いと行って来た。連れ合いと前に行ったのは2015年6月であった。札幌から来た人と3人で大助さんに面会した。前は頭が丸刈りで精悍そうな顔立ちだったが、今回は頭を散髪する前なのだろう、髪もあったせいか温かな顔をしていた。高知で開かれた日本母親大会のことを連れ合いは話して多くの母親から最高裁宛の再審開始を求める署名の協力もらったこと、高知の支援する会の人達とお母さんとの夕食交流のことなどを報告した。札幌から来た方は今回はじめての面会で、大助さんに伝えたいことをメモにして話していた。お互いに激励しながらの話は30分であったが、あっという間に

## えん罪・仙台北陵クリニック事件とは

守大助さん(当時29歳)が当時勤務していた医療法人北陵クリニックに於いて患者5人の点滴に筋弛緩剤を混入したとして2001年に逮捕。仙台地裁・高裁・最高裁で「無期懲役」が2008年2月に確定。同年7月から千葉刑務所に服役中。大助さんには動機がなく、患者の容体急変は筋弛緩剤の薬理効果と矛盾しており、科学鑑定でも否定されている。試料は鑑定時に全量消費・廃棄され、再鑑定ができない。

2012年2月10日仙台地裁に再審申立をし、2014年3月25日に再審棄却される。仙台高裁に即時抗告を行が2018年2月28日棄却される。3月5日最高裁に特別抗告を行う。



## 12月19日(水)

いつもより暖かい日差しの中、今年最後の面会に行ってきた。

「来てくれてありがとう」大助さんの変わらない笑顔。寒くなったね～、でも今日は暖かいね、そんな何気ない会話をするのが幸せだと思う。

せめて仕切りがなかったら、お茶やお菓子を食べながら話せたら、そんな風に考えてしまいます。

大助さんはいつも私の話を笑顔で聞いていてくれて時間があっという間に過ぎてしまいます。

もっとたくさん話したいし、大助さんの話を聞きたい。こんな普通の願いが叶わないなんて。

来年こそは帰って来てくれると信じてます。

来年はきっと良い年になると信じてます。

佐々木直美さん



終わってしまった。

刑務所ではTさん夫婦が私達を待っていた。徳島から私たちが行くというのを聞いて、ぜひとも会いたいということであった。話を聞いて納得、彼女は徳島に4年間住んだことがあり高校は城東高校で、彼女の兄は今も亡くなっていないが徳大のI教授であった。私たち夫婦もよく知っている方であった。いろんな方が守さんを支援していることがよく理解された。  
有川哲雄さん(徳島の会)

激励先〒264-8585 千葉市若葉区貝塚町192 守大助さん宛 2019年 125号

● 2月は上旬にメール等でお知らせします。救援会神奈川県本部に問合せ。

□面会申込み/□ 国民救援会神奈川県本部 Tel050-3310-1368 fax045-663-7953。

E mail-kyuenkai-k1@clock.ocn.ne.jp 発行/国民救援会千葉県本部 Tel043-239-7730 fax043-239-7740

E・mail kyuen-chiba@kc4.so-net.ne.jp

## 12月27日(木) ご両親

暮れ押し迫っての面会、明日は仕事納めで混むので、午前8時前に到着、案の定、受付が始まる前に外にはみ出す始末。それでも2番で順調に終了。

今月は寒暖の差が激しかったので体調を心配していたが、いつものように笑顔で元気に現れたので安心しました。今回の立ち会いの看守さんは、若い真面目そうな感じでした。一番にクリスマスケーキ食べられた、と尋ねると、ショートケーキ?らしきものが出されたと苦笑、ケーキ好きの息子がいつもクリスマスにデコレーションを買ってきてくれたので哀れに感じました。

12月に阿部弁護士が面会を約束していたが、遠方からの面会者と日程が重なり断念したので、1月に面会することを伝えたら目を輝かして喜んでおりました。最後に大助から皆さんに、「今年は大変お世話になりました。来年は良いお年を迎えられるように」との伝言がありました。今年最後なので千葉の救援会に挨拶して行こうと予定していたのですが、宮城を含む大雪が予想されていたので失礼して帰路に。案の定福島に入り雪模様に、家に着く頃はいくらかの積雪でしたが安全に帰宅できました。

## 12月26日(水) 神奈川の会

久しぶりの面会でした。元気な姿で入ってきました。警察の不当な取り調べをうのみにする裁判官への怒り、神奈川の会の総会の日に桜木町駅頭での宣伝・署名集めを行ったこと、署名だけでなく長い時間、私たちの話を聞いて1000円のカンパを置いてった人もいたことなどを話しました。4人で行ったために添田さんは面会しませんでした。



↑ 神奈川の支援者

● 千葉の支援者

## 12月21日(金) 秋葉豊州さん(千葉)

いつも元気な若い姿と笑顔での対応に安心をします。しかし、一方、冤罪による10数年の服役への忍耐、日々の労働の負担、それにもまして身上の痛み、辛さを思いやり、切なさを覚えるのも事実です。12月の面会となり、クリスマスのことを話しました。イエス様という救い主が天から来られ、私たちのすべての人間の罪と罰を身代わりを受ける等々を話しました。前回差し入れた息子の書も読まれたとのこと。最高裁で審議されている、公正な裁判で無罪で親元に帰れることを信じて、祈り続けています。面会毎に救援会千葉県本部の戸賀さんにお世話になっております。

## 11月26日(月) 森谷洋一さん(茨城)

救援会県本部会長の田村武夫さんに誘われて2回目となった今回の面会はSNS等で事件の経過、各地の「守る会」の活動を調べ多少の知識を入れての再会でした。今回の第一印象は寒くなり、上着を着ていた(サイズが大きめ)ので少し痩せたように見えました。田村会長は全国の「守る会」・茨城県の取り組みの報告をされ、ご両親の様子を伝えていました。私は料理が趣味なので1000食も作る苦勞が、よく解ります。食べる時間に合わせた調理に苦勞されての緊張は大変です。大助さんは真面目な方だから面会も月5回30分が許されています。ご両親の年齢が頭に有っても会いたいと心の内を語っていました。茨城では3組のグループがローテーションをかけて面会をしているようです。5回の面会が許されても、季節によって面会に来られる方々に波があると寂しそうに呟いていました。面会は季節の移り変わり、外の新鮮な情報を手にする唯一の機会だからでしょう。面会も守る会の必要な取り組みでしょう。何か必要な物があるかと聞いたら「韓流」の本が読みたいと言っていました。韓国ドラマの人間味?溢れた優しさに触れたいのかと思った瞬間でした。大助さんは全国の取り組みに関心を寄せられ田村会長に尋ねていました。「守大助さんを守る会」は布川事件の守る会より数は多いと聞いて目を輝かせていました。会によって温度差はありますが、あらためて事件の詳細を調べ、冤罪をこの世から駆逐しなければならないと思い、30分の面会を終えました。大助さんは今回も最後、時計に目を落とし「あと5分です」と、切ない言葉が耳に残っています。早く塀の外へと思いました。冤罪事件を知り、自白が証拠に採用されたのが「治安維持法」の時に、「治安維持法」が廃止されても、尚且つ生きている事に大きな危惧を感じました。